

タイトル: 基幹研究「アフリカ文化研究に基づく多元的世界像の探求」平成 23 年度第 5 回公開セミナー

日時: 平成 23 年 11 月 8 日(火曜日) 午後 6 時より午後 8 時

会場: AA 研マルチメディア会議室(304)

報告者: 目黒紀夫(日本学術振興会/東京大学大学院)

報告タイトル: 「アフリカで護られる野生動物保全の今—ゾウと同じ大地で暮らす人びと」

報告要旨

アフリカの多くの国にとって、ゾウやライオン、ゴリラといった野生動物を利用した観光業は大切な産業である。また、先進国や国際機関、NGO によって、数多くの野生動物を護るための活動・支援がおこなわれてもいる。とはいえ、テレビや映画でアフリカの野生動物が取り上げられるとき、野生動物と同じ土地の上で暮らしている人びとの姿が映されることは意外と少ない。

今回の公開セミナーでは、アフリカのなかでも「野生の楽園」として有名な東アフリカの国ケニアから、アフリカゾウの群れとキリマンジャロ山の眺めで有名なアンボセリ生態系をとりあげた。アンボセリは過去数百年にわたって牧畜民マサイの縄張りとなってきた土地であり、マサイは野生動物と共存してきた人びとといわれたりもする。その一方で、19 世紀以降、アンボセリは白人に大人気の狩猟場・観光地となり、国際的に野生動物保全が取り組まれてきた場所でもある。本報告では、同地での野生動物保全が、ゾウと同じ大地の上で暮らすマサイの生活にどのような影響を与えてきたかを紹介した。また最後に、今後の野生動物保全を検討する上で克服する課題を提示した。

*当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。Copyrighted materials of the authors.